

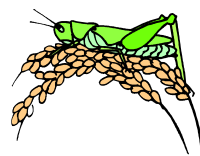
蘊安神社の獅子舞い

9月4日5日に盛大に開催されました

五十川地区に鎮座される「蘊安神社」獅子舞いは、9月4日5日の両日開催された。五穀豊穡・身体堅固を祈りながら……



お祭りといえばおもちなどを売る店がくるのが何よりの楽しみだった。それは今も昔も変わらない



《蘊安神社》おらほのおしっさまより

小柳は当地出身の力士、江戸相撲で前頭上位まで進んだ人、警固は代々この名を襲名している。獅子舞いは置賜に多い総宮の蛇頭系とは違い、静動取り合わせの振りが特徴で、蛇ではなくライオンだとしている。獅子頭は前後に長く、また顔が見えないくらいに毛が深い。氏子村を守るための獅子として、村から一切出たことがない。

長井の里は黒獅子の里、8月の旧盆から9月中旬にかけて獅子舞いが集中して行われる。最近特に、子供たちが笛吹きに参加している姿が多く見かけるようになり、伝統行事の継承として喜ばしいことだと思う。

長井市内に41箇所の神社で獅子舞いが行われているが、それぞれ特徴もあり、代々氏子のほか、崇敬者によって守られてきている。



黒獅子の元祖総宮神社獅子舞い

長井の黒獅子の総本家は「総宮神社」である。伝説に秘められた数々の物語が言い伝えられている。今年は9月18日19日の両日に氏子の家を練り歩き、15日に庭で新調された獅子頭のお披露目が行われた。同時に獅子幕も新調され披露された。



18日は午後2時30分から神事が開始され、獅子舞いは午後3時ごろから厳かに始まった。境内には大勢の参拝者や崇敬者や見物客が訪れ、祭り気分が盛り上がる。久しぶりにふるさとを訪れた人もいて、太鼓の響き笛の甲高い音色、そして勇壮な獅子舞いに魅入っていた。





新調された獅子は、御信心の歯打ち「ばちん」という研ぎ澄まされた音ともに崇敬者の悪魔を払う。長い白い毛を振り乱し、思いっきり歯打ちを繰り返す。

大町は獅子を迎えるにふさわしい町

大町商店街に獅子が来たのは午後6時過ぎ、今年で3年目、商店街の電気を消して、ガス燈で明かりをとす。提灯のほのかな明かり、かがり火と相まって幽玄の世界が広がった。



向かい懐かしい駄菓子屋も登場、女性の起業グループが売店を出している。ビールいっぱい 400 円高いか安いのか?????



《総宮神社》おらほのおしっさま他参照

置賜地区の獅子舞いの総本家といわれている。森、寺泉、川原沢など、近年まで近郷の人たちが獅子振りの勉強のために獅子連に入っていた。古くは川西町、飯豊町、小国からも習いに来ていた。

行いの背に赤崩山野山号があるが、吾妻山連峰の一部が赤崩山、最上川が荒れて蝦夷征伐にきた日本武尊に土民たちが耕作に差し支えるのと願い出る。赤崩山に刀を捧げて治水を祈願したところ、沼のように置賜の平野に水がかぶっていた水引いて土地が現れ、開発が進み神社を下流に下流に下げていって松川の合流地点に今の地に落ち着いたという。卯の花姫の伝説にもなっている総宮の祭りは深夜まで太鼓と笛の音色が響いた。

